

特集2

危険がいっぱい

— 学生生活と安全 —

新しく始まる学生生活を充実した実りあるものにしたい、というのは、すべての学生に共通のものである。が、複雑多様な現代社会においては、さまざまな陥穽があるのも事実である。本特集が、新入生はもとより、多くの学生が災禍に遭遇することなく、快適な学生生活を送る手助けになるとすれば幸いである。

大学生は
事故を起こしやすい！と
心得るべし

教育学部実験心理学講座

吉森 護

汝自身を知れ！

ギリシヤの哲人ソクラテスは当時の政治的・道徳的腐敗を憂えて、「汝自身を知れ」と述べたが、昨今の交通事故頻発に関して、大学生にまず己自身を知れと言いたい。次のような理由で、大学生は自分たちが交通事故を起こしやすいと心得るべきであろう。

第一に、ほとんど必要もないのに自動車や自動二輪車を保有し、日常的に遊び感覚で車を使うことが多い。「深夜のドライブ」をするものも多い。

第二に、運転免許を取得して間がなく、経験が乏しく、知識や運転技術が未熟である。

第三に、多くが土地感のないいわば「よそもの」であり、地理不案内者である。

第四に、「モラトリアム」期にあつて、社会的責任感が乏しい。

第五に、大学には職場のように、安全管理者がおかれていないので、日頃、あまり注意されない。等々。

「自分はだいたいようぶ」、「自分には事故は無関係」など他人事と思わないことである。車を使う場合はもちろん、歩いたり自転車に乗る場合でも「自分はエラーをおかす」、「自分も事故を起こす(遭う)かもしれない」と心得ておいた方がよい。実際、大学生の調査によると、一年間に約七五%近くが「あわや事故」の体験をしているのである。

四つの心得

そこで、とくに次の点を強調しておきたい。

①安全運転の知識の取得に努め、運転トレーニングを怠らないことである。一般に、免許を取得したらそうした努力をしなくなるが、運転が下手であることを自認して、つねに知識の獲得や運転技量の向上を目指すべきである。トレーニングをしておけば、非日常の事態でも適切行動がとれるようになる。

②辛い事故にはならなかったが、あわや事故になりかけた「ヒヤリした」・「ハットシ